

基本理念
 社員で考え社員のための
 労働運動を目指す、企業内
 労働組合
 心とこころをつなぐ相互扶
 助活動と、次代につながる社会
 正義の実現を目指す
 第 11 号

JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン
J R 連 合

ジェイアール・イーストユニオン
 発行者 菅野 一位
 編集者 教 宣 部
 〒105-0021
 東京都港区東新橋 2-8-28
 TEL (J R) 057-7333
 TEL (NTT) 03-6452-9687



ジェイアール・イーストユニオン 第 3 回定期大会

**組織拡大をもって民主化闘争
 完遂の道筋を明確にし、
 安全で社会に信頼される J R
 東日本を築こう！**

東京の五反田文化センターにおいて7月11日、ジェイアール・イーストユニオン（略称 J R E ユニオン）の第 3 回定期大会が開催された。連日、雨模様の中であったが当日は晴天に恵まれ、代議員は熱のこもった発言でこの先一年間の活動方針を討議した。

開会の挨拶に立った飯野副委員長は、本部の機関整備や二四協定締結までの組合員の協力に感謝するとともに、この大会が「目指す信念を貫き通すための一歩」となるよう代議員の討議を要請した。

大会議長には新潟地本の渡辺勝代議員が選出された。議長は就任に際し、組織問題については一歩踏み込んで、業務問題や技術継承も対象に論議してほしいと求めた。大会は次第に則り進められた。



議長の渡辺代議員

中央執行部を代表し挨拶に立った菅野委員長は、「安全問題」「春季生活闘争」「民主化闘争」などについて執行部の基本的な考えを提起した。（概略は別掲）



佐藤事業推進次長

来賓には交運共済東日本事業本部から佐藤事業推進次長をお招きし、事業状況を含めた連帯の挨拶をいただいた。また、J R 連合からは河村事務局長が出席して、概略次のような挨拶を述べられた。



河村事務局長

「いま連合で推し進めている労働者派遣法改悪阻止、これ



れまでも連合の中や、あらゆる場で議論しながら私たちも進めてきた。絶対許してはならない改悪法案である。政府は来年の4月、労働基準法の改正案を提出に併せて改定したいという話である。今後、連合との関わりをなかで動員などもあると思うのでご協力をお願いしたい。

安全確立の問題。振り返ると30年前の1985年に日航ジャンボ機の墜落事故。20年前には災害、阪神淡路大震災。そして10年前の福知山線脱線事故と羽越本線脱線事故。なぜか西暦の下一桁に5がつく年は大きな事故が発生している。絶対に大きな事故を起こしてはならないと思う。安全確立に向けた取り組みも J R E ユニオンにお願いしたい。

一方で労働災害が発生している。小さな労災もかなりあり、その結果が大きな死亡事故につながっていると思われる。安全な環境の下に安全な仕事ができるよう、危険の芽があらすぐに潰すように、安全の確立に努めてほしい。

東海道新幹線で焼身自殺による火災が発生した事件では、中国みたいに1時間に4本5本の列車であれば持ち物検査もできるが、

中央執行委員長あいさつ（概略）



第 189 回通常国会は安全保障関連法案や労働者派遣法改正法案などが審議されている。連合は「労働者保護ルール改悪阻止」に向けた総行動を展開し、健全な社会勢力としての労働組合が一致団結し不備な改正阻止に取り組むことが望まれている。こうした労働組合の重要な役割を認識しながら、我々の目指す労働組合像に向けて J R 東日本の中で健全な労働運動を創造するための原点と基本的な考え方について提起する。

安全問題について。福知山線脱線事故、羽越本線脱線事故から 10 年が経過し、失った信頼を取り戻すべく安全最優先の取り組みを愚直に進めてきた。しかし、川崎駅回送列車脱線事故、山手線電柱倒壊事故など、重大インシデントが多発している。会社の責任において背後要因を含め原因究明をするのは当たり前だが、労働組合の立場からも事故の撲滅に向けた労使間協議が重要であると考え。相手を思いやることのできる職場環境の醸成と現場力を育むことで安全風土を築き、現場での事故の芽を摘む安全意識の向上を図ること。我々は、J R 連合の「すべての J R 関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の運動を土台に、労働組合の強みと職場からの声をきめ細かく反映した安全の取り組みを推進する。

2015 春季生活闘争と夏季手当について。今次春闘は、雇用情勢の持ち直しなどによる回復基調、政府からの賃上げ要請などもあり 2 年連続での賃上げ獲得となった。しかし、日本を代表する企業名とは裏腹に妥結が 4 月に入り込んだ交渉は、J R 東日本内の労働組合として課題が残る取り組みとなった。夏季手当交渉では会社主導的な妥結日を引き出した結果で交渉を終えた。労働組合において、賃金に関わる部分は最たる取り組みであり、その交渉においては労使間の信頼関係が構築されていなければならない。我々は将来を見据えた中で、J R E ユニオンと J R 東日本の労使関係を創造し構築していく。

民主化闘争と将来を委ねる労働組合像について。組織結成から 1 年が経過し機関整備も終わった。労働組合として本格的に始動し、我々の運動・活動の取り組みが試され判断される。我々が J R E ユニオンを「この期に及んで」と思われても結成するに至った経緯は、民主的労働組合の歴史の後押しであり、J R 連合結成の原点を失わないため。民主化闘争宣言の「すべての J R 関係に過激派革マル派はいらない」との観念に立ち、この問題を解決して将来の J R 労働組合への組織継承をすることが、国鉄経験者に残された我々の最終課題。そのために J R 連合と一体となった運動の構築で、J R E ユニオン運動を J R 東日本の中で展開し、良識ある社員・将来を担う社員へ、良識な労働組合を継承するための行動・活動を実践していかなければならない。最後の力を一緒に一体となって行動展開していただくように要請する。

東海道新幹線車内で発生した焼身自殺事件は、今後の旅客輸送の在り方を考えさせられる社会現象となり、新たな安全問題への提起と考えられる。防止対策をはじめ大変難しい課題だと思うが、安心してご利用いただける J R として、対策を早急に立てなければならない。

また、会社内で起きている労政的課題、業務的課題は予想を超えた大きな課題となっている。前述した重大事故の続発、そして精神面から心の病にかかる社員の増加など、現場の問題解決がなされていない状態がこの様な状況を作り出しているのではないかと危惧する。J R 東日本の将来を担う現場の社員が触まれていく現状を、一刻も早く救わなければならないと考える。

我々は労働組合としての課題克服と併せ、職場で悩み落ち込んでいる社員の救済に関わることが重要。J R を継承すべき若手社員の人材育成、現場での総合的な人間力が必要とされる J R 東日本の中で、我々が持っている組合力には魅力があるはず。結集する組合員一人ひとりが、自信と確信をもって邁進していこう。

今秋の統一地方選挙では、組織内候補者現職の小野一雄氏の亘理町議選挙がある。小野一雄氏の当選へ向けた運動の取り組みをお願いする。併せて、来年の参議院選挙では J R 連合が推薦する候補者の支援、我々 J R E ユニオンへの理解と支援を得られる議員を見極め応援していく。

（一面から続く）
検査もできるが、こちらは十何本の列車が走っている。改札でのお客様の滞留、列車の遅れや運行プログラムの変更が出て、無理がある。先日の社長会見で J R 東海の柘植社長は「社員を誇りに思う」と言っている。4 人の乗務員と

2 人のパーサーは、命を顧みず一号車に向かって旅客の誘導避難にあたった。これからも緊張感を持ってやっていきたい。
組織関係では J R 連合の中もいろいろ問題がある。私は元々旧勤労出身、いろいろ歴史があつて皆さんも諸先輩方

も分割民営化を乗り切つてこまで来た。特にこれからのお願いは、グループ会社の組織拡大が必要と思う。いま J R 連合として 87 の労働組合の集まりになったので、当面そういう部分での組織拡大も必要であろうと思う。組織内における問題については、J R

連合の共闘会議でシッカリ議論しながら、いろいろな課題について今後とも取り組んでいきたい。
政策課題や春闘。同じ業種でも賃金格差がかなりあるし、J R の中でも格差がある。これまでの統一要求については、今後 J R 連合も勉強をして

ながら 2016 春闘を進めていきたい。秋には方向性なり進め方が明確になってくるので、しっかりと議論した中で明言していきたい。
東日本大震災から 4 年 4 カ月、東南海地震もいつかあると言われており、災害についても日々勉強し訓練しながら

やっていかなければならない」
そのあと中央執行部によりまとめられた活動報告並びに活動方針、会計報告及び予算案が執行部より読み上げられ質疑応答へと移った。
（以下、次号へ）